

## 企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

## エントランスギャラリー (1F)

富士山  
公益財団法人日本交通公社の  
取り組み (2019年1月～3月)

日本を代表する山、富士山。現在、文化遺産としての価値の認知向上や登山道の混雑による安全性の低下が課題となっています。今回の展示では「来訪者管理戦略」や、世界文化遺産としての価値の理解促進を図る「REBIRTH!富士講プロジェクト」など、当財団の取り組みを紹介します。



## ガーデンラウンジ (1F)

(継続展示中)

「旅の図書館  
オスメの一冊」  
(入れ替え展示中)

「一度は読みたい  
観光研究書 & 実務書100冊」  
(継続展示中)

「旅心を誘う、  
旅の本のレジェンド30選」  
(継続展示中)



## 古書ギャラリー (1F)

(継続展示中)

40周年特別展示第3弾：  
「日本における観光行政のあゆみ  
～国際観光局の13年～」  
(2019年1月～3月)

外客誘致に関する施設の統一、連絡および促進を図る官設の中央機関として1930(昭和5)年に設置されたのが鉄道省国際観光局です。戦前における我が国の観光政策を出版物とともにご紹介します。



## 展示ウォール (B1F)

当財団専門委員が選んだ  
「わたしの一冊」  
(継続展示中)

機関誌「観光文化」の連載「わたしの一冊」の記事とともに紹介しています。

「オーバーツーリズム」関連図書  
(2019年1月～3月)

機関誌「観光文化240号」(1月下旬発行)は、観光と地域の持続的発展を考える上で避けては通れないオーバーツーリズムについて特集しています。当館蔵書から、特集テーマに関連した図書を紹介しています。



## Information

「ふるさとパンフレット大賞」  
2108年受賞作品を展示中 (1F)

(一財) 地域活性化センターが主催している「ふるさとパンフレット大賞」の2018年(第6回)の受賞作品が決定しました。当館では、同センターの協力を得て、最新受賞作品(7作品)を展示しています。また第1回(2013年度)から第5回までの全受賞作品も揃えています。ご来館の際はぜひお手に取ってご覧ください。

\Mini/  
旅の図書館のウェブサイトを変更しました

開館スケジュールや新着図書などがわかりやすくなりました。蔵書分類の考え方なども詳しく紹介しています。

国内、海外の最新パンフレットを  
配架しました!(1F)

今年も「ツーリズムEXPOジャパン2018」(9/20-23)に参加し、国内、海外の最新観光パンフレットを収集しました。1F旅の情報コーナーに配架してありますので、ご活用ください。

港区みどりの街づくり賞を  
受賞しました

このたび当財団は、環境への配慮と優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者にも贈られる「平成30年度港区みどりの街づくり賞」を受賞しました。研究員も樹種の選定に携わって造りあげた前庭は時間帯や季節によって多彩に表情が変わります。ご来館の際は、ぜひご覧ください。

## たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 6

2019年1月号



# 「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

check/

## 旅の図書館40周年特別企画 第15回たびとしょCafeを開催しました (10/16)

テーマ 「古書から学ぶ未来へのヒントー日本の観光の課題とこれからー」  
ゲストスピーカー 西村幸夫氏 (神戸芸術工科大学教授)

開設40周年記念特集号として発行した「観光文化239号 特集:古書から学ぶ」の巻頭言をご執筆いただいた西村先生をお招きし、ご自身が影響を受けた古書や、古書から学ばれたこと、古書に関するエピソードをご紹介いただきました。日本の観光の未来を考えていく上でも古書が大きな力になること、研究へのバイタリティにつながることを改めて確信しました。そして先人からのメッセージとエネルギーを末永く受け継ぐ場所である図書館としての役割も再認識しました。

この他、40周年事業では古書展示ギャラリーでの特別展示、古書のデジタルアーカイブ化と保存箱の作成などをおこなっています。継続的な作業にともない、一部閲覧いただけない古書もありますので、ご利用予定の方は事前にご確認ください。

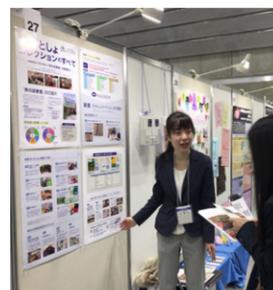


## 「図書館総合展2018」に参加しました

国内最大の図書館界のイベント「図書館総合展2018」が、2018年10月30日(火)から11月1日(木)の3日間、パシフィコ横浜を会場に開催され、当館は、昨年に続きポスターセッションに参加しました。今回の当館の展示テーマは「たびとしょコレクションのすべて」。当館ならではの蔵書の魅力を知っていただくため、スタッフが交替でブースの案内をしました。

ポスターセッションには全国から様々な館種の図書館84館が集まりましたが、専門図書館は当館を含めて10館ほど。今年は大学図書館の参加が目立ちました。展示に工夫を凝らしたブースには多くの人が足を止めて熱心に見入っていました。

九州・指宿から参加した  
ブックカフェ号  
「そらまMEN」号



## 2つの博物館の 企画展に協力しました

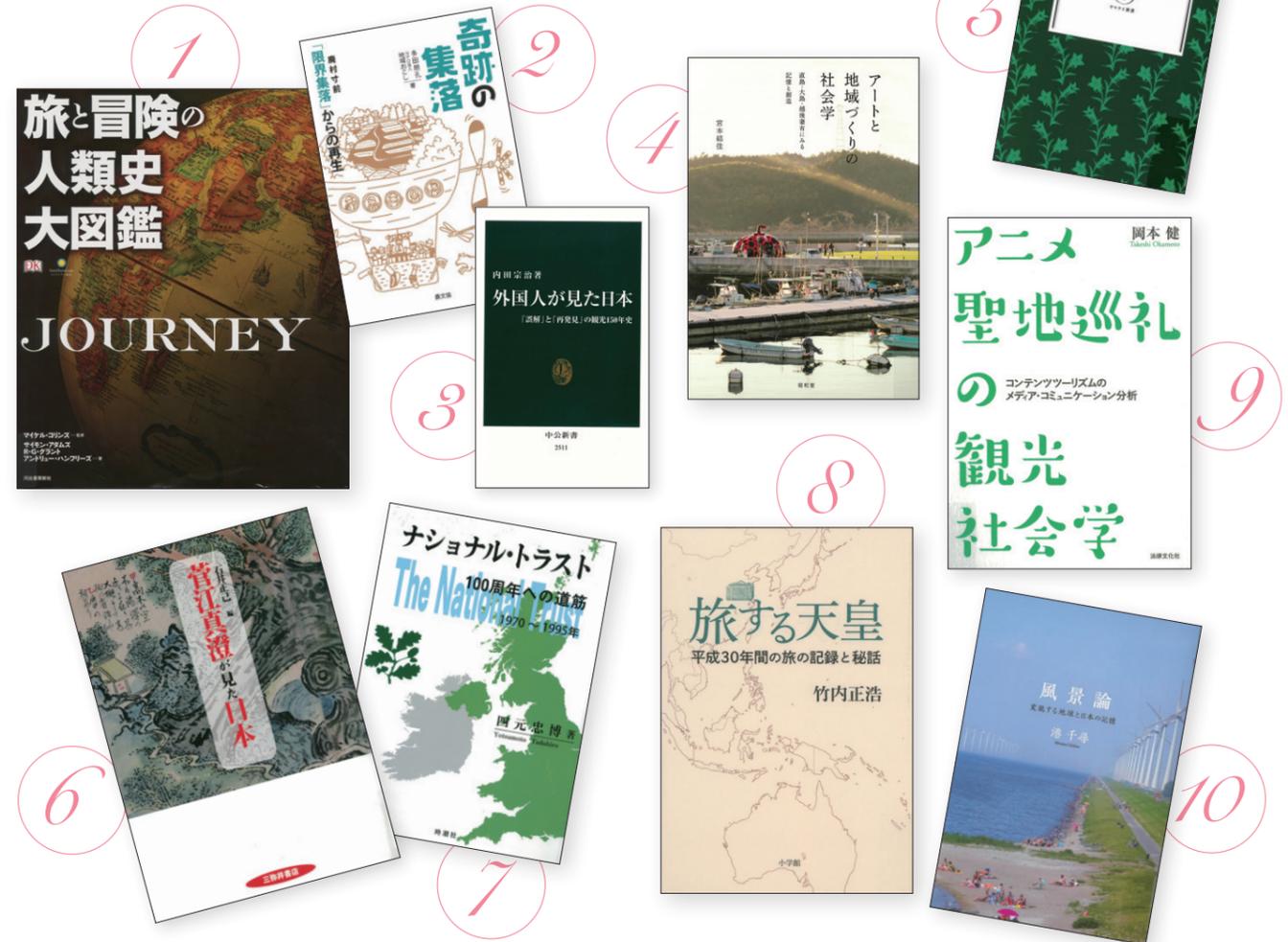
鉄道は時代とともに“旅”に変化をもたらしました。明治150年を迎えた京都市の京都鉄道博物館では、2018年9月22日(土)～2019年1月29日(火)の約4ヶ月間、企画展「LOVE Tabi展～時代とハートをうごかす列車旅～」を開催しています。この企画展には、1970年代の「るぶ」や古いガイドブックなど当館の蔵書7点も展示協力しています。期間中、京都へのご旅行の際はぜひお立ち寄りください。

また、朝霞市博物館(埼玉県)では、2018年10月13日(土)～11月25日(日)、第33回企画展「朝霞町へ行楽に ゴルフ場があったころ」が開催されました。昭和初期、東京住民の行楽地であった朝霞周辺の様子が、当館所蔵の「旅」「ツーリスト」などの記事からも伝わってきました。



# 旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



### 1 旅と冒険の人類史大図鑑

マイケル・コリンズ監修 サイモン・アダムズ、R・G・グラントほか著  
河出書房新社 2018年11月 B4変形判 360頁

戦争・征服・交易から冒険・発見・旅行まで、「人類の移動」というかつてない視点から古代から現代までの歴史をビジュアルに読み解く。まさに旅と冒険の人類史!

### 2 奇跡の集落 鹿村寸前「限界集落」からの再生

多田明孔、NPO法人地域おこし舎 農山漁村文化協会 2018年11月 四六判 277頁

鹿村の危機に直面した雪深い山間集落は、どうやって奇跡の再生を遂げたのか。「これは、農山村再生という目標から、より高いレベルの都市農村共生構築への挑戦である」(当財団専門委員・明治大学小田切徳美氏解題より)。

### 3 外国人が見た日本 「誤解」と「再発見」の観光150年史

内田宗治 著 中央公論新社 2018年10月 新書判 288頁

外国人は何を見たいのか。日本人は何を見たいのか。日本の魅力はいつどこにあるのか、誰がどう発見し、アピールするのか。めまぐるしく変転する観光の近現代史。

### 4 アートと地域づくりの社会学

直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造  
宮本結佳 著 昭和三社 2018年10月 A5判 232頁

各地で展開されつつあるアートプロジェクトは、はたして地域再生の切り札となるのか?地域社会とアート双方から現場で見え隠れする光と影を追う。

### 5 世界遺産を問い直す

吉田正人 著 山と溪谷社 2018年8月 新書判 208頁

人と自然の相互関係を守るはずだった世界遺産条約。「自然遺産」と「文化遺産」の分断が進み、単なる観光地ブランドになってしまったのはなぜか?日本の世界自然遺産登録すべてに関わった第一人者が、過去・現在・未来を問い直す。

### 6 菅江真澄が見た日本

石井正己 編 三弥井書店 2018年8月 A5判 255頁

江戸時代後期、半生にわたり旅し、東北・北海道の庶民の暮らしを克明に記録し続け、柳田国男によって広く社会に知られるようになった菅江真澄。真澄の地域への眼差しは、現代の観光地づくりに大きな示唆を与えてくれる。

### 7 ナショナル・トラスト100周年への道筋 1970～1995年

四元忠博 著 時潮社 2018年8月 A5判 474頁

自然環境保護運動の先駆けとして1895年、イギリスで創設された「ナショナル・トラスト」の100年の足跡を検証。これからの自然環境問題を考える上で一読しておきたい一冊。

### 8 旅する天皇 平成30年間の旅の記録と秘話

竹内正浩 著 小学館 2018年10月 四六判 269頁

現在の天皇陛下ほど各地を訪れた天皇はかつてない。天皇陛下即位後30年間の、約62万キロを超える驚異的な旅の記録を振り返る。

### 9 アニメ聖地巡礼の観光社会学: コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析

岡本健 著 法律文化社 2018年9月 A5判 278頁

アニメ聖地巡礼研究の第一人者であり、当館の「たびとしょCafe」にも登場いただいた岡本健氏の最新著作。国内外で注目を集めるアニメ聖地巡礼の起源・実態・機能を丁寧に解説。

### 10 風景論 変貌する地球と日本の記憶

港千尋 著 中央公論新社 2018年9月 四六判 352頁

「風景」とは、風と光を全身に包み私たちの知覚を呼び覚ます、世界の経験である。写真家・著述家である著者の眼を通した新しい風景と文明論。ページをめくりながら、著者の写真・言葉から見えてくる風景を一緒に考えてみたい。